

# グローバルにいがた



## 国際交流拠点から

from  
ブラジル



鈴木 雅夫さん  
＝サンパウロ新聞社長＝

## 五輪控え治安に懸念

ブラジルで開催されたサッカーW杯の時と同様、来年8月に開かれるリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックも直前まで盛り上がりを見せている。だが、今後はちよつと事情が違ふ。

昨年来日客が後退し失業率が上昇。国民からは「経済危機」との声が聞かれている。加えて政界を巻き込んだ大がかりな汚職事件が発覚。政界や大物政治家の名前が浮上り、「政治危機」も世間を騒がせている。二つの「危機」が日ごとに大きくなり、お祭り好きのブラジル人も日常生活に関わるだけに、いくつ「世紀の祭典」といったも素直に喜べないという。リオとは違うもの、リオでは会場建設やインフラ整備が着々と進んでいる。日本から下見に訪れた日本人は必ず「開幕までに間に合つてしまふか」と不安を隠さない。

ブラジルは何事にも賑わい合せて上手で、昨年のサッカーW杯で実証済み。天災も、それより、日本も国立競技場の建設でゴタゴタしている。自分たちのことを心配した方がいいんじゃないの」と切り返す余裕を見せる。

会場施設などは形を整えるだろうが、道路や地下鉄が予定通り完成するかは疑問だ。競技会場は4カ所に分かれ、移動手段が重要なのだが、直前まで目を離せない。

そして最大の関心事が相変わらずの治安の悪さだ。先ごろリオの海岸で未成年者が集団で観光客を襲い、話題になった。この映像が世界中に流れ、オリンピック関係者は神経をこがらせている。警察は「未成年者は逮捕できず打つ手が無い」とあきらめ顔だ。

日本からの進出企業もリオの下見に余念がない。会社関係でオリンピック見物に来るお客さんがいるからだ。「既に防弾車がなく、各地から取り寄せているらしいですよ。VIPとなると警護を付けなければならず、その費用がかさんで頭痛い」とこぼす。

リオの次は東京ということもあり、日本の関係者のリオ詣りが多くなっているが、現地で強くなるのは期待よりも不安のようだ。

(鈴木さんは母親が三条市出身です)

ブラジルで開催されたサッカーW杯の時と同様、来年8月に開かれるリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックも直前まで盛り上がりを見せている。だが、今後はちよつと事情が違ふ。

昨年来日客が後退し失業率が上昇。国民からは「経済危機」との声が聞かれている。加えて政界を巻き込んだ大がかりな汚職事件が発覚。政界や大物政治家の名前が浮上り、「政治危機」も世間を騒がせている。二つの「危機」が日ごとに大きくなり、お祭り好きのブラジル人も日常生活に関わるだけに、いくつ「世紀の祭典」といったも素直に喜べないという。リオとは違うもの、リオでは会場建設やインフラ整備が着々と進んでいる。日本から下見に訪れた日本人は必ず「開幕までに間に合つてしまふか」と不安を隠さない。

ブラジルは何事にも賑わい合せて上手で、昨年のサッカーW杯で実証済み。天災も、それより、日本も国立競技場の建設でゴタゴタしている。自分たちのことを心配した方がいいんじゃないの」と切り返す余裕を見せる。

会場施設などは形を整えるだろうが、道路や地下鉄が予定通り完成するかは疑問だ。競技会場は4カ所に分かれ、移動手段が重要なのだが、直前まで目を離せない。

そして最大の関心事が相変わらずの治安の悪さだ。先ごろリオの海岸で未成年者が集団で観光客を襲い、話題になった。この映像が世界中に流れ、オリンピック関係者は神経をこがらせている。警察は「未成年者は逮捕できず打つ手が無い」とあきらめ顔だ。

日本からの進出企業もリオの下見に余念がない。会社関係でオリンピック見物に来るお客さんがいるからだ。「既に防弾車がなく、各地から取り寄せているらしいですよ。VIPとなると警護を付けなければならず、その費用がかさんで頭痛い」とこぼす。

リオの次は東京ということもあり、日本の関係者のリオ詣りが多くなっているが、現地で強くなるのは期待よりも不安のようだ。

(鈴木さんは母親が三条市出身です)



リオ五輪の開催を知らせる看板。ブラジルの人々は期待と不安を胸に、準備作業を見守る。



＝次回は来年1月11日に掲載します＝



ブルックリン植物園にある日本庭園と、イサム・ノグチの作品(手前)

from  
NY



五十嵐 道子さん  
＝柏崎市出身＝

## 四季感じ散策楽しむ

ニューヨークでは、風がだんだん冷たくなってきたものの、12月にしてはやや暖かく、日中は気持ちの良い青空が続く毎日です。

平日はマンハッタンに通勤し、高層ビルの並ぶ都会的な景色を背景にオフィスで慌ただしく時が過ぎていきますが、週末は穏やかなブルックリンの近隣のんびり散策しています。

ブルックリン中北部のプロスペクト・ハイットはお気に入りの散策エリアの一つです。ブルックリンのオアシスと呼ばれるプロスペクトパークとブルックリン植物園という巨大な緑の空間に加え、並木道が多く、街を歩いているだけでも季節の趣が感じられます。

ブルックリン植物園は日本庭園があり、それもまた足を運ぶ一つの楽しみ。庭園建築家・塩田武雄により1915年に建設され、正式には日本式築山庭園と呼ばれているこの庭園は、公園の一部として造られた日本庭園としては全米で最古のもので、池に浮かぶ季節やかな赤い鳥居が印象的で、季節ごとに色鮮やかな植物や真っ白な雪に囲まれながら存在感を放っています。池泉回遊式とされ、滝や大鼓橋、灯籠等も設置され、さまざまな角度から美しさを満喫することが出来ます。この庭園の誕生100周年を記念し、今年13日までイサム・ノグチの彫刻作品展が開催されています。

庭園の奥には42種200本超の桜並木が続き、今の時期は園内を赤や黄色に染めています。植物園がピンクに変わり、毎春恒例の桜祭りが開催されると、東京ドームの約4.5倍という広大な園内は人で埋め尽くされます。植物園に隣接するブルックリン美術館にも桜の木が多数あり、豊富で多様な展示物とともに建物の内外で年中訪問客を楽しませてくれます。

ニューヨークも新潟のように四季がはっきりしており、折々の季節を感じられるのは楽しいことです。冬の厳しい寒さを感じるような重たいような空気がありますが、雪景色やプロスペクトパークでのスケートを楽しむのにぴったりです。

(五十嵐さんはNYの国連本部に勤務しています)

from  
ロンドン



松崎 美子さん  
＝英国新潟県人会会員＝

## 国際色豊かな金融街



ロンドンの金融街シティにある英国の中央銀行

世界の金融街といえは真っ先に浮かぶのは映画でもおなじみの米ウォール街でしょう。それに比べ外国為替の取引高世界一を誇るロンドンの金融街シティは、日本ではあまり知られていません。

シティは1平方マイル(約2.6平方キロ)という狭い地域にロンドン証券取引所、英国中央銀行等が密集している金融業発祥の地の1平方マイルを中心とした金融街がはじき出す英国GDPへの寄与度は10%と群を抜いて高く、この地域は特別行政府として扱われており儀式的な意味とはいえ国王ですら行政長官市長の許可なく入ることが禁止されています。

シティは米ウォール街とは違い、高層ビルが無く、低いビルが立ち並んでいるのが特徴的。建物の外観は昔のままですが、内部は近代的な斬新なデザインである点も特徴的といえるでしょう。

1990年代に入り、金融業界の多様化に伴い、多国籍金融企業による大規模なスペース需要が持ち上がった。それに伴って、シティが白羽の矢が当たったのが、シティから東に5キロ離れたドックランズ地域でした。19、20世紀後半まで世界有数の商業埠頭として栄えましたが、港湾産業の衰退とともに埠頭は閉鎖され、廃墟と化していました。10年にわたる工事の結果、寂れた埠頭地帯が多数の金融街として復活したのです。

私はシティにある銀行で働いていました。米ウォール街にある支店に何度か出張した時に一番強く感じた違いは、そこで働いている人たちです。ウォール街勤務の金融関係者のほとんどが米国人であるのに対し、シティでは欧州大陸、イギリス、米国、アジア、中東と非常に国際的です。そして使用されている言語は、ウォール街での「100%英語」に対し、シティは共通語は英語ですが、並行してフランス語、イタリア語など各国の言語が飛び交っているのが特徴といえるでしょう。

(松崎さんはロンドン在住で為替取引を行うほか、経済や金融に関するコラムを執筆しています。母親が三条市出身です)

from  
広州



立島 圭彬さん  
＝三条市出身＝

## 味に厳しく情は厚く



サッカーチーム広州恒大のサポーターと立島さん(左)

5年前、中国広東省にある広州にきた。「食は広州にあり」という言葉通り、広州は中国の食のメッカ。そこで飲食で勝負する。当時の日本料理屋はラーメン、すし、お好み焼きなど幅広く提供されるような店ばかりだった。それが今では細分化され、専門店が増えた。

中国の中でも特に味に厳しい広州人が日本を訪れた本場の味を知りたいという声が多くなった。広州での日本食産業が一層厳しくなったこともその一因といえるだろう。2、3年をサイクルに、多くの店が淘汰されていった。

中国経済の勢いは減退しているといわれるが、人々はむしろパワーにあふれている。底上げされて消費力が伸び、飲食店を中心とするサービス業にとってはビジネスチャンスが広がっている。

中国は活力があつて、それだけで日々刺激的で楽しい。日本はあらゆる面で成熟しきっているが、中国は自分が何かを動かせるという可能性に満ちている。

もちろん、信頼を寄せた任入れ担当のピンハネが発覚したり、お店のディスプレイが盗まれることなど、トラブルに悩まされることもある。しかし、中国人は友人に対する情が厚く、困った時にはいろいろな人が助けてくれる。現在スタッフは全て中国人。常にスタッフと同じ目標で働くよう心掛けていく。大切なのは先頭に立つて熱くなること。人の心を動かすのはパッションだ。それが伝染するとすごいパワーになる。そんな瞬間を幾度となく見てきた。そして変化を怖がらずに挑戦し続けること。うまくいかない時もあがるが、トライしないと何が通用しないのかさえない。

広州も広州恒大というアジアでナンバー1のサッカーチームのおかげで随分と知られるようになった。いつか自分が故郷を誇れるアルビレックス新潟と広州恒大の試合が広州で見られる日を楽しみにしている。そして今後もたくさんの方々が広州に日本の味を伝えられるよう努力していきたい。

(立島さんは広州市の焼肉店の店長です)

日本のげんきを、新潟から

新潟日報 LEADERS倶楽部 2015

新潟県農業のフロンティアが一堂に!

にいがた 夢農業2015

12月15日(火)・16日(水) AM9:30~PM4:00

主催:新潟県クボタグループ

新潟市産業振興センター

〒950-1141 新潟市中央区鐘木185-10 TEL.025(283)1100代

講演会

- 2F大会議室
- 15日 鉄コーティング 鉄コーティング直轄栽培10周年功労表彰 兼 総括検討会
- 15日 成績発表会 ICT活用による大規模機械団体の経営発展について
- 15日 特別講演 一般社団法人日本農業機械化協会 会長 雨宮 謙
- 16日 担い手支援 新潟県における法人育成等の取組について
- 16日 法人農業経営 これからの農業経営管理の視点
- IF会議室
- 作業別分科会 子実コーン・大豆・小麦・野菜など

※講演会のテーマについては、予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

株式会社 新潟クボタ 【住所】新潟市中央区鳥屋野331番地(本社) 【TEL】025-283-0111(代表) 【URL】http://www.niigatakubota.co.jp/

本を 作ろ う。

自分史 エッセー 小説 歌集 写真集

「アナタだけの一冊」を応援します。

自分史・エッセー・小説・歌集・句集・画集・写真集・社史などなんでもお気軽にご相談ください。

信頼と実績の新潟日報事業社がご提案します。

ここが違います! 私たちの本づくり

- 発行点数4,000冊以上のノウハウをもっています。
- ベテラン編集スタッフが、原稿整理から丁寧に対応いたします。(1冊ごとに専任編集者が担当します)
- ご希望により、県下有力書店で代行販売も行います。(小規模により代行販売できないものもあります)

●お申し込み・お問い合わせは 新潟日報事業社 出版部

TEL 025-383-8020

〒950-8546 新潟市中央区万代3丁目1番1号メディアシップ14階

ホームページもご利用ください。 新潟日報事業社